

＝ 公告 ＝ 論文(著述文)の發表の御依頼に應ず**——天界誌上の開放——**

平常、天文一般に關する御自分の研究なる論文、考證、著述等に就いて、若し、御發表の機會を持たない方は、「天界」誌上を特に御提供致します。但し、下記諸項を御了知下さい。

- 1) 發表申込者は本會々員に限らず、一般人士の申込みに應ずる。
- 2) 天界(菊版)1頁につき平均金2圓也を申受けます。(但し、寫眞銅版、凸版等の代金を含む。——因みに天界一頁とは9ポイント活字……462字詰、6號活字……570字詰を云ふ)
- 3) 頁數は幾何に増大せるものにも御引受けし、發行頁は每發行號に一纏めに發表し、(勿論、天界は附録的増頁發行する)追號・分割せず。
- 4) 發表頁の別抜刷を無料にて50部まで御引受けし、50部を増す時は、1頁につき30錢宛を附加するものとする。
- 5) 原稿は全て左横書き、句點はロ1マ字式、圖版は黑色明瞭なること。
- 6) 原稿締切は發行月の前々月25日とする。(原稿返戻す)

天界は毎月40頁の豫定ですが、若し上記の御申込みがある場合は、豫定の40頁は基準としておいて、この外に増頁して附録的に取扱います。

一つ天界を殷盛にするため、天文界のため大いに筆墨を起す勇者はありませんか、内容の非常識ならざるものなれば、ドシドシ、御申出で下さい。悦んで誌上を割讓致します。

御不審の點は御問合せ下さい。

昭和11年8月

東亞天文協會編輯部

本年度總會開催について問ふ!!

例年の如く、11月上旬、本會の總會を開催します。これにつき豫め、下記の諸件を決定するため、大方の會員諸氏の御希望意見に訴へ、意義ある本年總會と致したい。蓋し、昨秋の大阪總會は本會創立以來の盛況だつたので、之れに劣らず盛大な會合としたい。

1. 開催地の選擇……特に、總會開催につき御奔走下さる方の御申出を希望します。
2. 日、時、プログラムの立案……基礎的事務上の發表、協議、改選の他に、有意義と考へられる催し?
3. 本會の組織、規則、事務上等の改正すべき點……新時代に向つて、更新すべき具體案?

大體上記の問題ですが、一般會員の方々、殊に地方委員の方々の御意向を窺ひ度く、總會は全會員の意志による總會合である事を希望します。

昭和11年9月

東 亞 天 文 協 會

本會が寄贈を受け交換される雑誌・印刷物 (昭和11年8月現在調)

東京天文臺報(東京天文臺)、天文月報(日本天文學會)、天文關係印刷物(東北帝大)、氣象集誌(大日本氣象學會)、歐文彙報(中央氣象臺)、高層氣象臺報告(筑波山高層氣象臺)、地質學雜誌(地質學協會)、地學雜誌(東京地質學會)、地球(地球學團)、水澤緯度觀測所報告、海洋氣象臺報告、農學研究(大原農業研究所)、研究抄録(服部奉公會)、滿洲氣象月報(滿洲國中央觀象臺)、康德3年時憲書(中央觀象臺)、Russian Astronomical Journal (露、Soviet Union)、科學(岩波書店)、科學知識(科學知識普及會)、理學界(中興館書店)、OHM (オーム社)、ラヂオの日本(日本ラヂオ協會)、京星(京星會)、銀河(大阪 A. A. R.)、Circular コスモズ(名古屋天文學會)、大阪支部報(大阪支部)、觀音(無得莊)、京都青年(京都基督教青年會)、基督教家庭新聞(日曜世界社)。

編輯後記

★號を追つて、有らゆる角度へ投影された『日食記事』は、この日食の全貌を知るに充分であらう。まだまだ、我々は筆を盡して、この日食を記録しておきたい。天上の春の日食は、‘その皆既の影を誌上に投ずるのは秋から冬へかけて續く。又となき、この機會を!!

★全日本のあらゆる階級の人々を、暫し、天人化せしこの日食、蓋し、地上の騷擾を掃つて、燦然と輝いた天上の壯麗『日食』よ!! 有難う!!

★第16巻は本號を以つて終る。11月號より新巻となる。これは例年のことだが、本會の一政策上の方針である。改巻に臨み、御意見、御希望があれば拜聴したい。

★秋漸く深み、清澄な蒼空に星光を望む時、屢々、わが宇宙の大を想ひ、天文と人生の永遠を知る、意義深きこの秋!! (葵星)